

# 平成27年度 アカデミー推進計画進行管理表（平成26年度実績）

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	スポーツ振興
-----------------------	-----	--------------	-----	--------

アカデミー推進 計画における分野	2 スポーツ
分野別の目標	1 スポーツのきっかけづくり

## 1 現状と課題

- ① 区内の各種スポーツ機会や施設等の情報を分かりやすく提供するとともに、スポーツに関わるさまざまな相談・問い合わせ等に対応することが求められています。
- ② 区民の多様なライフスタイルを踏まえて、日頃スポーツをしていない人がスポーツをはじめのきっかけとなるような情報の発信や手軽にスポーツに親しめる機会を充実させることが求められています。

## 2 基本的な方向・事業実績

	取組状況結果資料ページ
(1) スポーツに関する情報の発信と相談体制の整備	8
(2) スポーツへ参加する機会の提供	8

## 3 評価対象事業

事業名	事業の概要
2020年東京オリンピック・パラリンピックの推進	2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会が決定したことから、区民のスポーツへの関心がより高まっています。こうした状況を踏まえ、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けた準備等を行う庁内組織を設置し、気運醸成事業を推進するとともに、様々な整備を進めていきます。

## 4 分野別評価

参考：24年度評価

- ・スポーツ関連の情報収集・整理が現状の課題となっている。誰もが必要な時に、必要な情報を手にできるような環境づくりが求められている。
- ・障害者スポーツについて、現状として明確な方向性が示せていない。関係各課や、他の関係団体と連携を取り、機会提供をさらに支援していく必要がある。
- ・文京区では、区民にスポーツに参画してもらうことや、スポーツを楽しんでもらうことに重きを置いている半面で、「より健康的に暮らす」といった健康・医学の視点に欠けているのではないかと。健康・医学に関して言えば、生涯教育分野とのさらなる連携が必要ではないかと。

参考：平成25年度評価

- ・誰でも、手軽に、簡単に体を動かすことのできる、ニュースポーツが充実していることは評価できる。
- ・ニュースポーツの位置づけや理念をしっかりと持つことが、区のスポーツ事業の強みにつながるのではないかと。例えば、「パラリンピック種目(ボッチャなど)に特化して、パラリンピアンを輩出する」というようなコンセプトも今後の可能性として示していけるのではないかと。
- ・施設のバリアフリー化が進む中で、スポーツ分野の事業においても、障害のある人もそうでない人も一緒になってスポーツに取り組める環境を実現できるとよい。

※ニュースポーツ：競技性を重視せず、誰でも参加できることを目的としたスポーツの総称。  
(例：ドッチビー、キンボール、ボッチャ等)

平成26年度評価

# 平成27年度 アカデミー推進計画進行管理表（平成26年度実績）

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	スポーツ振興
-----------------------	-----	--------------	-----	--------

アカデミー推進 計画における分野	2 スポーツ
分野別の目標	2 スポーツを楽しむ環境づくり

## 1 現状と課題

- ① 区立スポーツ施設の使いやすさをより一層高めるとともに、「スポーツ交流ひろば」のように身近な場所で気軽にスポーツが楽しめる場として、さらに区内のスポーツ資源の有効活用を図ることが求められています。
- ② 子ども、勤労者、妊婦、高齢者、障害者など、ライフステージや、ライフスタイル、体力等を踏まえて、健康づくりやスポーツを楽しむためのさまざまな支援や配慮、対象者のニーズに応えた、多様なプログラムを提供することが求められています。
- ③ スポーツを楽しむことに加え、技術レベルの向上等を目指す区民のために、競技力の向上を支える仕組みづくりが求められています。
- ④ 既存のスポーツ団体の活動を活性化するために、関係団体との連携強化を図ることが求められています。

## 2 基本的な方向・事業実績

基本的な方向・事業実績	取組状況結果資料ページ
(1) スポーツ施設の整備・充実	9
(2) 既存施設等の利活用	9
(3) 多様なニーズに対応するプログラムの提供	9~11
(4) スポーツを通じた地域交流の活性化	11

## 3 評価対象事業

事業名	事業の概要
スポーツ交流ひろば（スポーツ開放） の運営委員会化の推進	新しい競技の実施や事業の運営内容の見直しを行い、区民の誰もが、いつでも気軽に参加できる環境づくりを進めていきます。 区、指導員（運営委員会）と学校の三者間の連携を強化する中で、実技指導の内容充実や利用者の安全確保に努めるなど、必要な体制づくりを整えていきます。
スポーツセンターの改修	時間の経過により老朽化の進行した施設の改修、耐用年数を過ぎた設備の更新と合わせて、施設全体のバリアフリー化、地球温暖化対策や省エネルギー対策等へ対応した施設とするため、全面的なリニューアル（改修）工事を実施します。なお、改修にあたっては、平成26年度中にその概要を整理し、平成27年度から3年程度の期間をかけて行います。

## 4 分野別評価

参考：24年度評価

- ・区のスポーツ施設の稼働率が高いため、現状として、区の事業や指定管理者の自主事業といった、新しい事業展開が困難である。
- ・学校施設の有効活用という点で、教育委員会や学校施設との連携が不足しているのではないかと。実際に運営を行う側と学校側とのコミュニケーションが十分に取れていない面がある。
- ・年代によってライフスタイル・ライフステージが異なるため、それぞれにあった幅広いプログラムを提供する必要がある。
- ・現在のスポーツ事情について、ソフト面と比較し、ハード面の整備がより一層求められていると考えられるが、そのような中で新しい体育館の開館が行われたことは評価できる。

参考：平成25年度評価

- ・区内の屋内運動施設が充実していることについて評価できる。
- ・都心部にあるため、限られた用途でしかスポーツ施設の利用ができず、事業も広く浅くという形になってしまう。より一層メリハリのある事業展開をされたい。
- ・学校施設の開放について、学校教育に支障のない範囲での貸し出しとなることから、学校側の観点に立った開放となってしまう。「学校施設を地域に積極的に開放する」と、昭和51年6月に出された文部省の通達について、教育委員会・学校側が理解し、継承していくことが必要ではないか。
- ・スポーツ交流ひろばについて、学校を通じた連絡（開催について、落し物・忘れ物について等）が困難である。教育委員会・学校・指導員・所管課（スポーツ振興課）の連携をより一層深めていくべき。

平成26年度評価

# 平成27年度 アカデミー推進計画進行管理表（平成26年度実績）

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	スポーツ振興
アカデミー推進 計画における分野	2 スポーツ			
分野別の目標	3 スポーツ観戦の魅力向上			
<b>1 現状と課題</b>				
<p>① 貴重なスポーツ資源であるプロスポーツ等団体や施設などが、「スポーツ観戦」という観点から相互に連携・協力して、区内におけるスポーツ振興を図ることが求められています。</p> <p>② プロスポーツ等団体をはじめ、学校や地域のクラブチームなどの試合観戦や地元チームの応援、練習風景の見学などができるような仕組みや機会づくりが求められています。</p>				
<b>2 基本的な方向・事業実績</b>				取組状況結果資料ページ
(1) プロスポーツ等団体との連携・協力				12
(2) スポーツ観戦機会の拡充				12
<b>3 評価対象事業</b>				
事業名		事業の概要		
スポーツ団体等協働事業		区内に拠点を置く日本サッカー協会や読売巨人軍等のスポーツ団体やスポーツ企業、大学等のスポーツ関係団体等と協働し、区民にスポーツの魅力を伝え、スポーツへの関心を高めるとともに多様なスポーツを行う機会を提供していきます。		
<b>4 分野別評価</b>				
<p>参考：24年度評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>サッカー協会や東京ドームなど、区内に存在する多くのスポーツ資源を活用し、スポーツ振興事業を展開できている点について、評価できる。</li> <li>今後も継続して、各団体や大学、プロスポーツ団体との連携を図り、より一層協働を進めていく必要がある。</li> </ul>				
<p>参考：平成25年度評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>区内の地域スポーツクラブの地域派遣を実施し、研修や助成金制度等についても積極的な情報提供を行っている。今後も引き続き、スポーツ団体との連携を図り、より一層の協働を進められたい。</li> </ul>				
平成26年度評価				

# 平成27年度 アカデミー推進計画進行管理表（平成26年度実績）

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	スポーツ振興
-----------------------	-----	--------------	-----	--------

アカデミー推進 計画における分野	2 スポーツ
分野別の目標	4 スポーツ指導者の育成

## 1 現状と課題

- ① 若手スポーツ指導者の育成や地域におけるスポーツの人的資源の活用を図り、さまざまな種目において多くの指導者を確保することが求められています。
- ② スポーツ人口の底辺を拡大するために、行政と関係スポーツ団体等との連携・協力体制を構築し、技術の向上だけでなくスポーツを通じて人間性を高めるなど、より一層、指導力を強化することが求められています。

## 2 基本的な方向・事業実績

	取組状況結果資料ページ
(1) スポーツ指導者等の育成と確保	12
(2) スポーツ指導者の技術等の強化	13

## 3 評価対象事業

事業名	事業の概要
スポーツ交流ひろば（スポーツ開放）の運営委員会化の推進	新しい競技の実施や事業の運営内容の見直しを行い、区民の誰もが、いつでも気軽に参加できる環境づくりを進めていきます。 区、指導員（運営委員会）と学校の三者間の連携を強化する中で、実技指導の内容充実や利用者の安全確保に努めるなど、必要な体制づくりを整えていきます。
スポーツ指導者の育成と活用	スポーツ指導者の資質向上のため、専門技術・メンタルトレーニング・指導方法・安全管理等の講習会を開催します。 スポーツ団体等に実技指導員（スポーツ推進委員またはスポーツリーダー）を派遣します。

## 4 分野別評価

参考：24年度評価

- ・スポーツ交流ひろばをはじめ、指導者側の高齢化が顕著であり、指導を行う担い手が不足しているため、現スポーツ指導者ら（スポーツ推進委員等）の負担が大きいことが課題となっている。
- ・今後は、スポーツ指導員の役割や制度について、区民に対してより一層周知していく必要がある。
- ・指導者には、実技のみならず、地域との連絡調整能力やマネジメント能力が求められているため、さらなる指導力の向上や、指導者の活性化が必要である。

参考：平成25年度評価

- ・各施設の指定管理者側の職員スタッフ数が限られている。そのため、障害者スポーツの介助者や指導員などといったボランティア制度を検討する必要がある。
- ・スポーツ交流ひろば（スポーツ開放）の歴史は他の自治体と比較して長く、事業内容も充実している。
- ・スポーツ指導員対象の研修について、障害者スポーツなど、普段経験できないようなものについても内容が充実している点は評価できる。

平成26年度評価